

# 信州大学繊維学部アーカイブ

上田蚕糸専門学校からの貴重資料を中心に



発行：信州大学繊維学部 編集：繊維学部図書館

令和元年（2019年） 7月 22日

# 信州大学繊維学部アーカイブについて

- 上田蚕糸専門学校から続く「ものづくり」「人づくり」の精神を具現化し、  
現在・未来の人材育成に生かす -

信州大学繊維学部は、明治43年(1910年)に設立された上田蚕糸専門学校を前身とし、平成22年(2010年)に創立100周年を迎えました。これを機会に、学内に残る上田蚕糸専門学校時代からの貴重資料を整理・収集し、展示しました。

合わせて、生命科学から心の科学まで、衣食住を包括する繊維科学・ファイバー工学の最新の技術、未来像、それがもたらす産業像・社会像までを大学全体で紹介できるよう、整備を進めています。



このパンフレットは、上田蚕糸専門学校時代からの貴重資料を中心に簡単に説明したものです。

下記デジタル・アーカイブをはじめ、学内の展示も直接ご覧いただければ幸いです。

平成22年(2010年)春、デジタル・アーカイブを公開しました  
<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/>

## <内容>

1. 織物見本帳
2. 生糸商標彙帖
3. 上田蚕糸専門学校の教材
  - 掛け図・模型
  - すごろく
4. 上田蚕糸専門学校の歴史
  - 絵葉書
  - 初期の写真(ガラス乾板)
  - 上田蚕糸専門学校一覧(附属配置図)
5. 養蚕関係の図書
  - 蚕母要覧(模本コレクション)
  - 養蚕秘録
  - 新撰養蚕秘書
6. 蚕織錦絵(模本コレクション)
7. 装束・束帯

# 目 次

1. 織物見本帳
2. 生糸商標彙帖  
きいとしょうひょういじょう
3. 上田蚕糸専門学校の教材 : 掛け図・模型
4. // : すぐろく・唱歌など啓発資料
5. 上田蚕糸専門学校の歴史 : 記念品（絵葉書など）
6. // : 初期の写真（ガラス乾板）
7. // : 上田蚕糸専門学校一覧（附属配置図）
8. // : 事務文書・図面
9. 図書（和漢書・翻訳書ほか）
10. 装束
11. 書・石碑など
12. 絵画
13. 機械
14. 標本・生物
15. 建築物
16. 寄贈コレクション : 加美文庫・池田文庫
17. // : 榎本コレクション
18. 繊維学部の情報発信施設 : Texpo（テクスポ）・疾走するファイバー展・繊維学部資料館



春の構内（総合研究棟より正門方向）

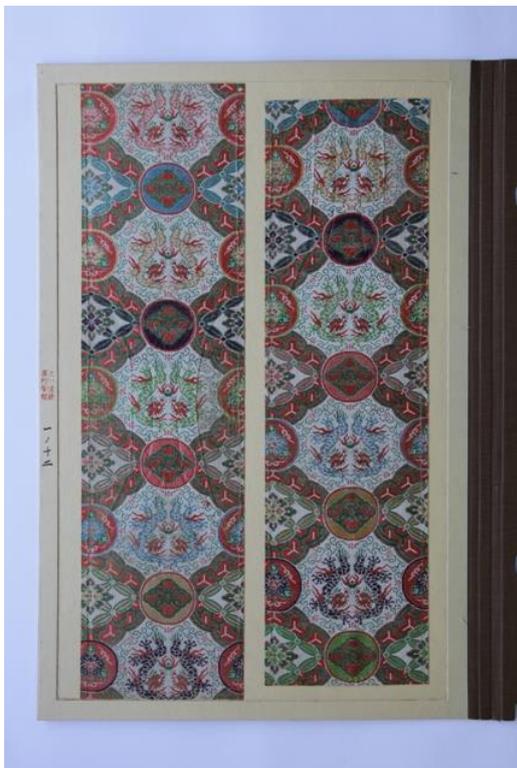
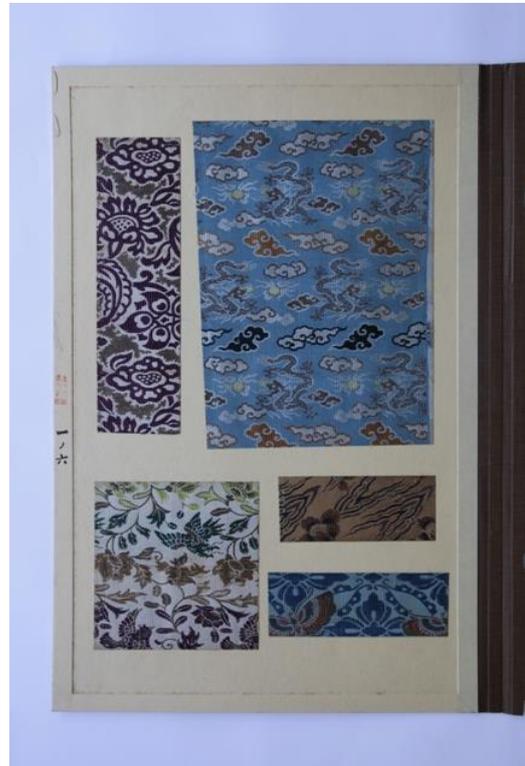
# 1. 織物見本帳

織物の中で最も雅やかな、<sup>にしき</sup>錦織物を中心に収めた<sup>おりものぎれ</sup>織物裂の見本帳です。



上田蚕糸専門学校で教材として使われた織物見本帳は、信州大学繊維学部にて6冊(634裂)残っています。備品番号として、絹紡織科の番号がついていますので、この学科で使っていたものと思われる。

中の織物は、江戸末期から明治時代にかけて製織され、主に宮中・華族などに納められたものと推量されますが、詳しい由来はわかりません。日本の伝統的な紋様の織物が多く、織物を設計するための貴重な資料になります。



## 2. 生糸商標彙帖 (輸出用生糸の商標)

製糸科2回生が、全国の製糸会社から集めて学校に寄贈した841枚の商標で、大正2年(1913年)の開校記念式典で展示されました。

当時、生糸は日本の重要な輸出産業でした。商標には、外国人から見てエキゾチックな日本のデザインやローマ字、英語・フランス語も使われています。

また、地域名に「信濃」など旧国名が多く、当時の人々の「国」の意識もうかがえます。



ベージュの5枚は、官営富岡製糸所の商標



ときだかん  
上田市の常田館などの商標  
常田館は、現在の笠原工業の前身の企業です。



ちょこづくり  
猪口造り生糸  
生糸商標は、このように使われました。  
参考：東京農工大学科学博物館収蔵品

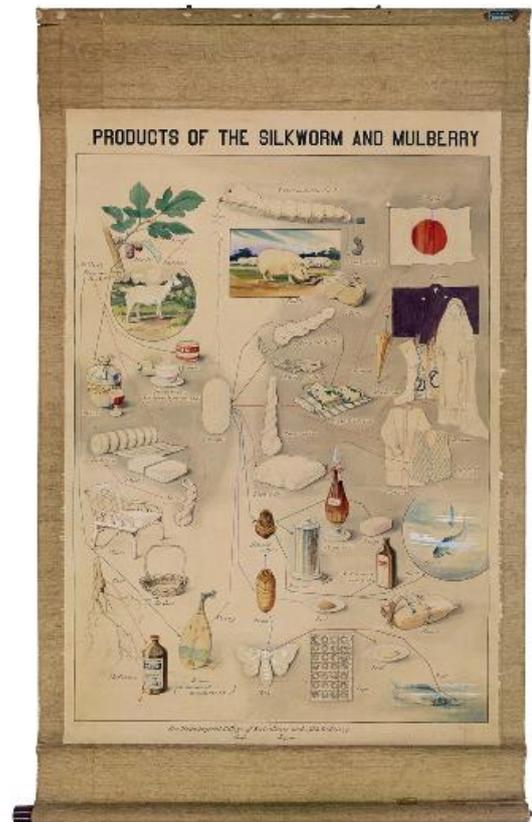
### 3. 上田蚕糸専門学校の教材：掛け図・模型

授業に使われた教材の掛け図や模型です。掛け図には、養蚕・製糸の専門科目はもちろん、歴史や地理などの一般科目もあり、模型と同様に精巧に作られています。

専門学校の備品番号も入っているのですが、残念ながら購入年月日ははっきりしません。



桑の「<sup>しろもんば</sup>白紋羽病」を説明する掛け図  
本体の絵は手書きで、繊細な彩色がなされています。和紙の説明書きがついていました。



「蚕と桑からの産物」の掛け図  
枠の下部に「Ueda Imperial College」の表記があり、特注品として教官と業者・職人が協働で作上げたことがうかがえます。

掛け図は、この他にも遺伝学・蚕の解剖図などがあります。



蚕の幼虫の模型  
上下で割れて、中の構造もわかるようになっています。

#### 4. 上田蚕糸専門学校の教材：すごろく・唱歌など啓発資料

日本で養蚕技術が科学的に確立してきた明治20年代以降、生産にかかわる多くの庶民に知識や情報を周知するために、行政的な努力が続けられました。すごろくは、庶民の娯楽を利用して正しい養蚕法を広めようとしたものです。他にも、養蚕唱歌を子どもたちに歌わせるなど、いろいろな手段で情報が伝えられました。

蚕糸専門学校の卒業生が、現場の指導者となった時にも利用したかもしれません。



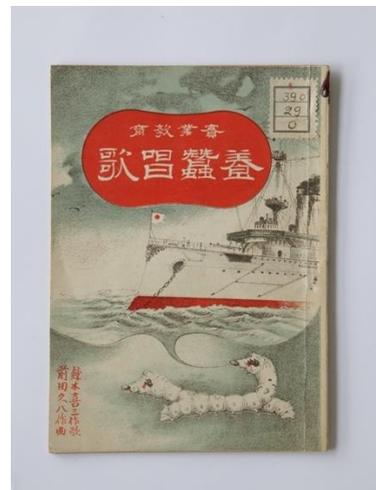
養蚕寿古六（ようさん すごろく）

このすごろくは、<sup>ちいさかたさんぎょう</sup>小<sup>みよしよねくま</sup>県蚕業学校（現在の<sup>ちいさかたさんぎょう</sup>上田東高校）の三吉米熊校長が校閲していますので、明治25年（1892年）以降のものと推定されます。

すごろくの枠は、養蚕・製糸・生糸の輸出と並んでいて、自分と国の繁栄へと進む様子がリアルに描かれています。



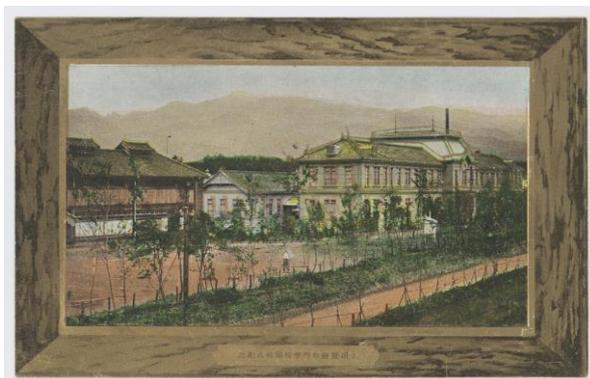
骨槽乗合汽車



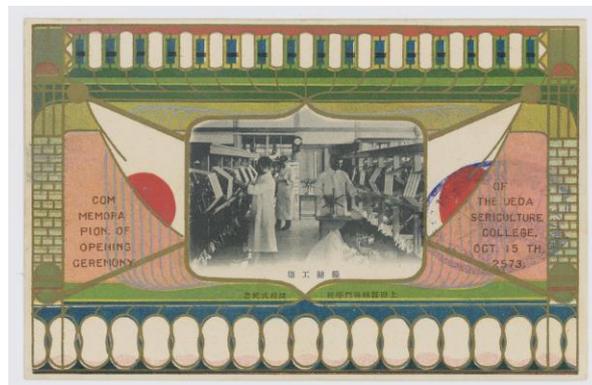
養蚕唱歌

## 5. 上田蚕糸専門学校の歴史：記念品（絵葉書など）

記念絵葉書は、大正2年（1913年）10月15日に挙行された上田蚕糸専門学校開校式と、大正9年（1920年）10月の創立10周年記念祝賀会の際に発行されたものです。



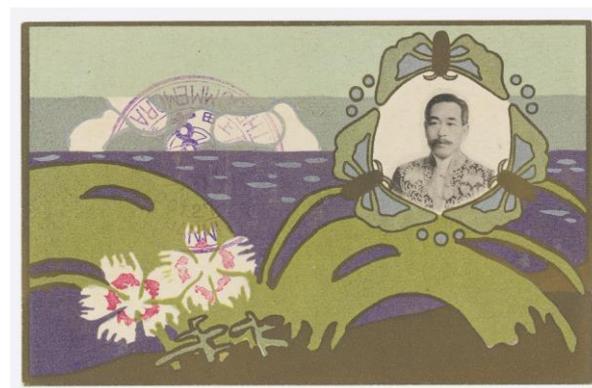
開校式の記念絵葉書



開校式の記念絵葉書（榎本コレクション）



創立10周年記念絵葉書（榎本コレクション）



創立10周年記念絵葉書

針塚賞は、上田蚕糸専門学校の初代校長の名前を冠した、優秀な卒業生に贈られる賞でした。

第1回は昭和16年（1941年）3月の卒業式で授与されました。記念すべき初の受賞者は、後に信州大学の教授を務めました。

顕彰制度は平成15年度に復活し、やはり同じ名称になりました。



昭和15年度針塚賞記念品（硯箱）

## 6. 上田蚕糸専門学校の歴史：初期の写真（ガラス乾板）

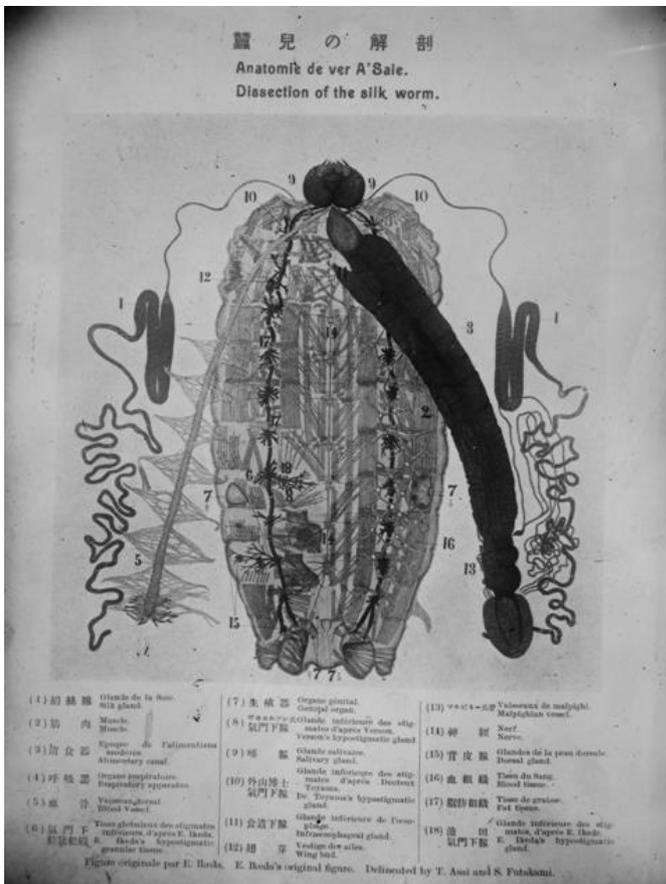
大正2年（1913年）10月15日に挙行された開校式前後の写真が、多く残っています。当時の構内・実験や実習の様子・スポーツ・上田の遠景も写されています。

また、半分ほどは蚕や桑の研究用写真で、教材用の掛け図と同じような解剖図もあります。



上田蚕糸専門学校初期の構内写真

今も残る貯繭庫<sup>ちよけんこ</sup>がはっきりと写っています。左側の小さな屋根が乗っている建物は製糸実習工場で、その奥に本館がありました。



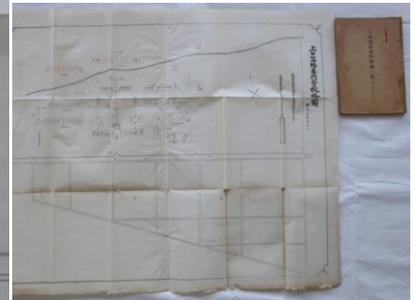
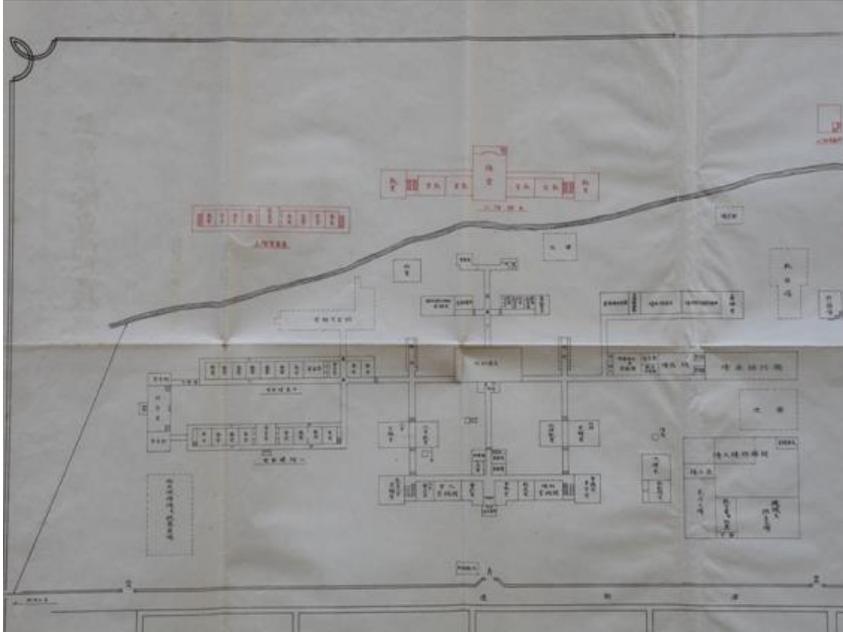
蚕児の解剖図

上田蚕糸専門学校時代の教材。原版はガラス乾板で、箱に「教務課所有 蛾幼虫の解剖図 昭和七年五月四日購入」の記載があります。

表記は日本語とイタリア語です。人間の解剖学がドイツ語で教えられた時代ですが、蚕糸の中心がイタリアやフランスだった影響が考えられます。

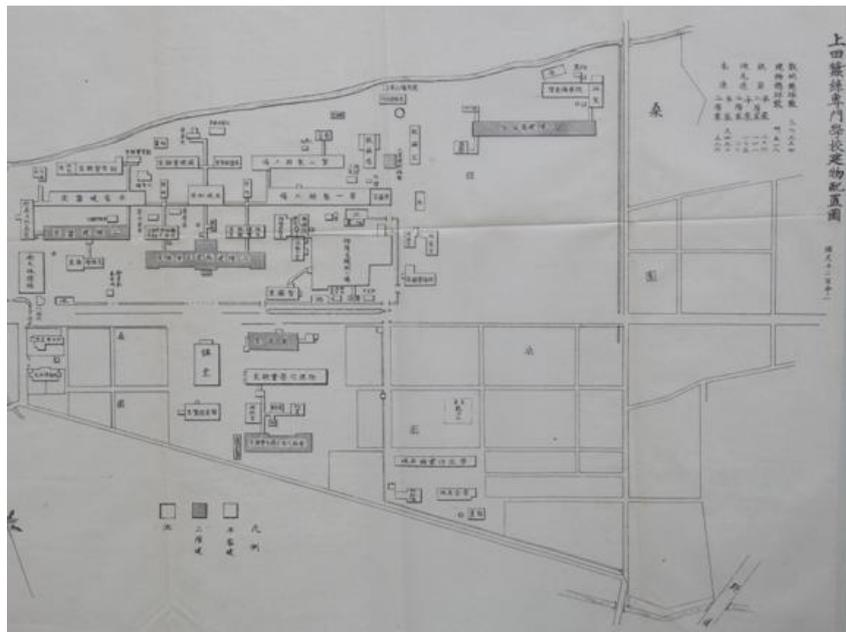
## 7. 上田蚕糸専門学校の歴史：上田蚕糸専門学校一覽

明治44年度に最初の入学生を受け入れてからの、現在で言えば、大学概要と学生便覧を合わせた内容のものです。学校一覽に附属の構内配置図は、その時点での建物配置の資料にもなります。



明治44年度の構内配置図

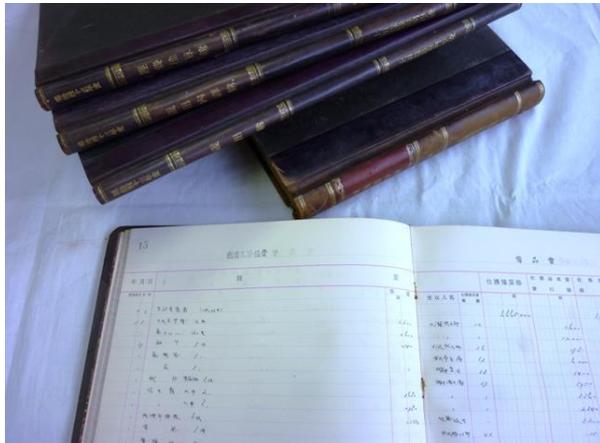
現在のメインストリートより北側だけに建物があり、南側は桑畑でした。メインストリートは、当時は<sup>ねっ</sup>祢津街道という公道で、それに向かって（南側に）正門が設けられていました。



昭和5年度の構内配置図

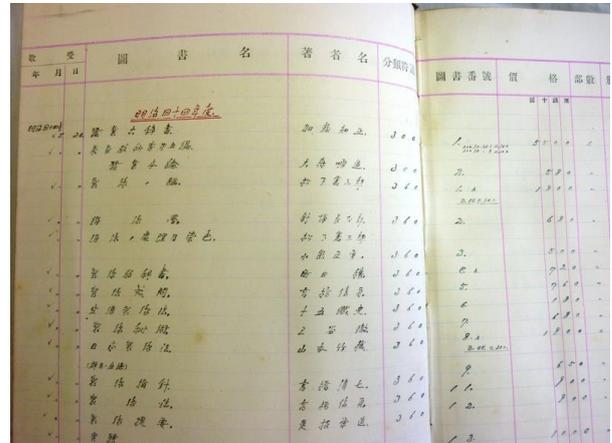
正門は西側に移動し、メインストリートの南側に講堂・製図室・物理化学実験室などが建ちました。門衛所（守衛所）は今もこの場所にあります。雨天体操場（武道場）は繊維学部資料館（旧貯繭庫）の南東側に移築されています。

## 8. 上田蚕糸専門学校の歴史：事務文書・図面



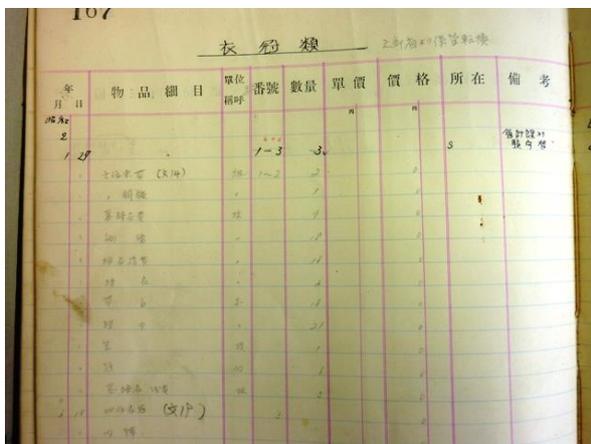
### 明治44年度の会計関係の帳簿類

開いてあるのは備品費のページで、5月の購入物品は、学生宣誓書・印・風呂敷・袱紗・お盆などでした。



### としまかんしゅほ 図書監守簿

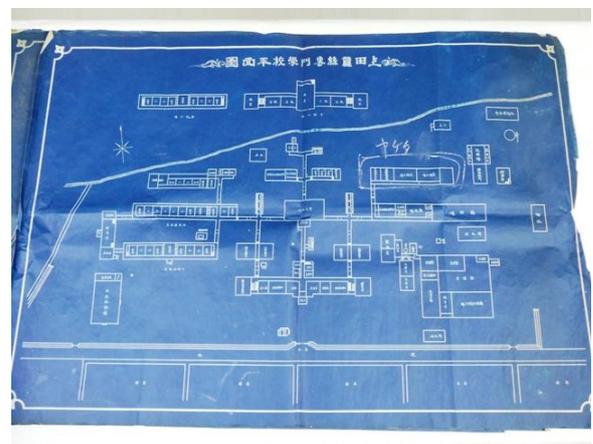
開いてあるのは蚕糸関係の部門のページです。専門分野で最初に受け入れた図書は、「蚕業大辞書」でした。明治44年5月20日に5円50銭で購入しています。



### 図書館で管理していた物品の備品監守簿

本棚や火鉢とならんで「衣冠類」というページがありました。

『10. 装束』のページで紹介している衣冠の記録です。



### 上田蚕糸専門学校平面図（青焼き図面）

守衛所や雨天体操場（現在、織維学部資料館の南東に移転された武道場）がありますので、大正2年以降の図だと思われます。

## 9. 図書（和漢書・翻訳書ほか）

現在、上田蚕糸専門学校の蔵書約2万冊が残っています。900冊ほどの和綴じ本は、当時教科書に使われていたようです。その他に「加美文庫」「池田文庫」「榎本コレクション（図書の部）」という、寄贈された蚕糸・染織に関する文庫も所蔵しています。

（「加美文庫」「池田文庫」「榎本コレクション」については、後述もご参照ください。）



うえがきもりくに ようさんひろく  
上垣守國著「養蚕秘録」

たじまのくにやぶぐん  
但馬国養父郡西谷村（現在の兵庫県養父市大屋町）の上垣守國が、1802年（11代将軍徳川家斉の時代）に著した養蚕技術書です。

「養蚕秘録」は、大変わかりやすく書かれていますので、日本中の養蚕業者に読まれました。1848年には、フランス語訳が出版され、我国の技術輸出第1号といわれています。



つかだよえちん しんせんようさんひしょ  
塚田與右衛門著「新撰養蚕秘書」

信州上塩尻村（現在の上田市上塩尻）の蚕業家、塚田與右衛門が、1757年（九代将軍徳川家重の時代）に出版しました。栽桑、蚕種、養蚕法をまとめ、巻頭には桑樹栽培・養蚕・製糸・製織・製品にいたるまでの絵が載せられています。

日本の本格的な養蚕書では、野本道玄「蚕飼養法記」（1702年）、馬場重久「蚕養育手鑑」（1712年）などにつぐ古いものです。



「Trattato sull'educazione dei bachi da seta」

欧州に伝えられた日本の養蚕技術書です。フランスの東洋学者ロニーによってフランス語に訳され、さらに1870年にイタリア語に訳されました。

「白河某による『養蚕新説』」を訳した、となっていますが、日本での「白河某による『養蚕新説』」は、確認されていない、謎の本だそうです。

# 10. 装束

上田蚕糸専門学校時代のものと思われる、公家装束の束帯・衣冠が保管されています。入手の由来を調査中ですが、一部は昭和2年には蚕糸専門学校に存在していたことが帳簿上確認できます。また、信州大学となっても受け継がれていた「団長の舞（団長踊り）」の衣裳も、2着残っています。



けつてきのほう  
六位の武官用関脇袍



関脇袍の四位以上用  
おりもんよう  
織紋様が入っています。



ほうきせきのほう  
六位の文官用の縫脇袍  
ごたいてんれい いかん  
「御大典禮衣冠」の札がついています。



「常田ヶ丘拍子」の衣裳  
もう1着には、「浅間拍子」とあります。

## 11. 書・石碑など

上田蚕糸専門学校の校長室・講堂・道場などに掛けられていた書の額が残っています。状態のよい書は、現在も学部長室や会議室に飾られています。額だけではなく、石碑・記念碑にも、能筆家としても著名だった針塚初代校長の書が見られます。



針塚初代校長の書「<sup>そつとたくし</sup>味徒啄師」



針塚初代校長の書「挺身從事」 繊維学部資料館に展示中

「<sup>そつとたく</sup>味徒啄<sup>き</sup>の機」について

鳥の孵化の時、ひなが内からつつくの<sup>そつ</sup>を「啐<sup>そつ</sup>」、親が外からつつくの<sup>たく</sup>を「啄<sup>たく</sup>」と言う。この啐啄の機微をとらえて、先生と生徒が愛をもって一体となり教育活動を展開することを、針塚校長は好んで実践されたようだ。

「写真集 繊維教育八十年」より



針塚初代校長の胸像

現在の講義棟前に建っています。最初は、石井鶴三氏製作の原型により、昭和10年（1935年）に全身の座像が作られました。しかし、戦時中に、門扉・講堂2階の手すり・講堂の飾り金具などと一緒に供出され、戦後の昭和26年（1951年）に、同じく石井鶴三氏原型の胸像を設置しました。



蚕霊供養塔

揮毫は針塚初代校長。大正12年（1923年）に正門近くに建立され、のちに農場側に移転しました。この前で、蚕の供養祭が行われました。

## 12. 絵 画



倉田 白羊 「秋陽」

制作年代：昭和7-10年（1932-35年）

油彩 カンヴァス 40.7×58 cm

独特の構造をもった養蚕農家を描いています。

倉田 白羊（くらた はくよう）

明治14年（1881年）埼玉県生まれ，昭和13年（1938年）

長野県上田市で死去。大正11年（1922年）に，山本<sup>かたえ</sup>鼎が設立した日本農民美術研究所の副所長として，上田市に移住しました。ホームスピンの生産にも携わり，農民と密着した芸術を追求しました。



現在も学部長室に飾られている日本画。大正14年（1925年）に購入したものです。落款には「駿尾<sup>らつかん</sup>」とあり，野口駿尾<sup>しゅんび</sup>の作と思われる。

野口 駿尾（のぐち しゅんび）

明治14年（1881年）東京生まれ，昭和21年（1946年）死去。

小説家・吉川英治との親交でも知られます。

# 13. 機 械

けんしほうせき

## 絹糸紡績機械一式（イギリス製および石井鐵工所製）

平成21年（2009年）5月16日，産業考古学会2009年度研究大会において，推薦産業遺産と認定されました。豊田自動織機GⅡ型などと一緒に，現在も学生実習に活躍しています。

<推薦産業遺産請用紙より>

遺産の名称：信州大学繊維学部所蔵の絹糸紡績機械一式（10台）

製作年代：大正2年（1913年） 上田蚕糸専門学校に10台購入設置

使用期間：購入設置時代から現在まで。10台すべてを現在も使用中。

推薦理由：わが国絹糸紡績機械の典型で，1920年代以前の絹糸紡績機械の全工程一式が残存するのは，世界的にも唯一の例です。



開綿機（かいめんき）  
工程の最初の機械です。



切綿機（せつめんき）  
回転ローラーに櫛状の針がついています。



円型梳綿機（えんけい そめんき）  
これだけが国産で，石井鐵工所製。高さが約2.5メートルあります。



リング精紡機（せいぼうき・正面）と  
リング撚糸機（ねんしき・奥側）  
2つの機械がセットで1台になっています。

## 14. 標本・生物



ヒマラヤ杉

大正8年（1919年）に、当時の皇太子殿下（のちの昭和天皇）が植樹されたヒマラヤ杉です。

樹齢90年以上で、昭和37年（1962年）の本館の火災で少し焼けたようですが、今も元気に枝を張っています。



かいこ まゆ  
蚕の繭の標本

上段の2種は、研究用によく使われる「赤熟」と「大草」です。

下段の黄色い繭は、「又昔」と「天竜青白」、白い繭は中国産で、形が丸みを帯びています。

「青白」は、近年、淡い生成りの色が好まれて再び人気となっています。



かきん やきん  
インドの家蚕と野蚕の繭と糸

左から、

- ・インド家蚕
  - ・カシミール ジャム野蚕
  - ・アッサム タッサー柞蚕
- という説明がついています。

「タッサー柞蚕（インド タッサー）」は、現在は「タサール蚕」とも言われています。

# 15. 建築物

## ① 国の登録有形文化財

平成10年9月2日登録



### 講堂

昭和4年度（1929年度）竣工

木造2階建て、トタンの切妻屋根。外壁は下見板張りに、縦目板張りの腰壁をめぐらしています。天井は格式の高い、折り上げ格天井です。ステージ、演台、換気口などに、桑・蛾・繭のデザインがあります。正面は、三角形の破風と三角の出窓がデザインになっています。

平成19年度には、経済産業省の近代化産業遺産に認定されました。

平成25年6月21日登録



### 繊維学部資料館（旧貯繭庫）

明治44年（1911年）上田蚕糸専門学校の開校時に竣工

煉瓦造、屋根は寄棟で瓦葺き。壁は、段ごとに煉瓦の長い方と短い方が見えます。周囲をめぐる装飾・開口部・基礎に色違いの煉瓦を、開口部と基礎には石も使って、外観にアクセントをつけています。

平成25年6月21日登録



### 守衛所

大正元年（1912年）竣工

当時、現在のメインストリートは「祢津街道」と呼ばれる公道で正門は南に向いており、この守衛所も、ほぼ敷地中央の南側にありました。その後、祢津街道の南側にも建物が建ち、昭和4年度（1929年度）に、西側に正門が移動するのに合わせて移築されました。

## ② その他の歴史的建築物



### 武道場

移築と改装のため、さほど古いようには見えませんが、大正元年（1912年）竣工。

竣工当初の外壁は、<sup>したみいたば</sup>下見板張りでした。昭和42年度（1967年）に、現在の場所（繊維学部資料館南東）へ移築されました。



### 書庫（旧アイソトープ実験室）

昭和5年（1930年）、生理実験室として竣工。鉄筋コンクリート造。アイソトープ実験室としてもつかわれました。

屋根は寄棟および切妻のセメント<sup>がわら</sup>瓦。窓は上げ下げ窓で、外壁の仕上げのモルタルに幾何学的な装飾が帯状にあります。ゆるい勾配の屋根と、それに連なる鉄筋コンクリートの<sup>ひさし</sup>庇が、水平方向への印象を強めています。



### 旧千曲会館

上田蚕糸専門学校の創立25周年を記念して、昭和10年（1935年）に竣工。平成30年（2018年）、繊維学部同窓会千曲会創立100周年を記念事業にて改修されました。

木造2階建て、下見板張り。講堂と似た感じがするデザインで、玄関車寄せは、3本1組の柱や、スロープの<sup>くるまよ</sup>腕手の<sup>けっしゅ</sup>立ち上がりが凝っています。

## 16. 寄贈コレクション：加美文庫・池田文庫

### 加美文庫

昭和18年（1943年）頃に寄贈された、繊維工業を中心とする1,128冊の専門書です。



#### 加美 好男（かみ よしお）氏

上田蚕糸専門学校卒業後、新興人絹株式会社  
の常務取締役技師長として活躍されました。  
昭和16年（1941年）に亡くなった後、  
遺言により蔵書を寄贈されました。

### 池田文庫

平成19年度（2007年度）に、松本市の老舗「<sup>しにせ</sup>三六呉服店<sup>さんろくごふくてん</sup>」の池田六之助氏から  
寄贈された、染織に関する豪華本32点（52冊と1,335枚）です。



#### 池田文庫 『繪巻文様』全2巻

昭和6年（1931年）発行

「栄華物語」「三十六歌仙<sup>かせん</sup>」などの古絵巻物から抽出した文様をすばらしい色彩で再現した、  
現在では入手不能な稀覯書<sup>きこう</sup>です。



#### 池田文庫 『祇園祭 染織名品集』

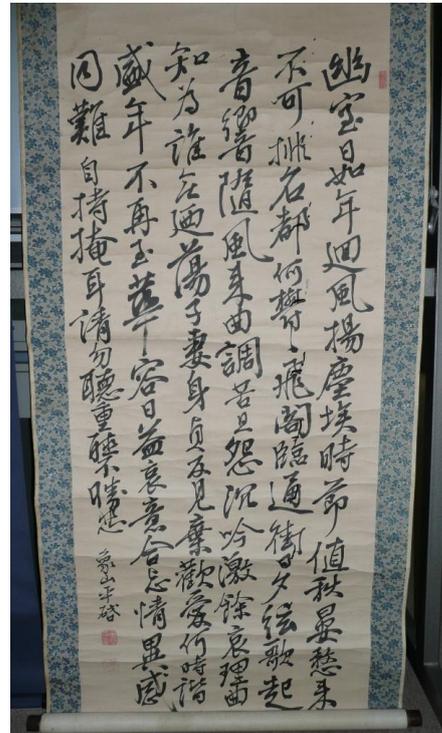
昭和44年（1966年）、祇園祭1100年  
記念事業として発行された、山鉾<sup>やまぼこ</sup>の垂れ幕類の  
図録です。祇園祭の山鉾は、日本のみならず世  
界の染織の宝庫とされています。

## 17. 寄贈コレクション：榎本コレクション

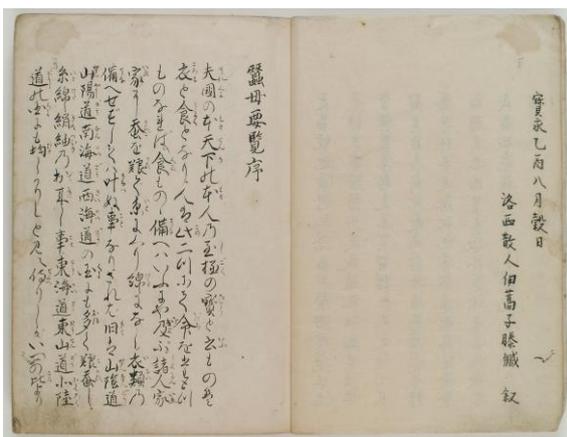
平成20年度（2008年度）に、創造工学系機能機械学課程 榎本祐嗣教授より信州大学へ寄贈された、蚕糸や科学の歴史に関する貴重な資料です。



製糸や織物を題材にした錦絵（浮世絵）  
喜多川歌麿作の版画です。



長野県出身の幕末の思想家、佐久間象山の書



古文書「蚕母要覽」 武富成亮著  
日本で2番目に古い、1705年に書かれた  
養蚕技術書



さく座繰り器  
繭から生糸を繰る道具です。

## 18. 繊維学部の情報発信施設

信州大学繊維学部では、総合研究棟 1 階の Texpo (テクスポ) にて、現在の繊維学部の紹介と研究成果の展示をしています。総合研究棟 2 階の「疾走するファイバー」展では、未来のファイバーを、繊維学部資料館 (旧貯蔵庫) では、これまでの歴史を展示し、ファイバー科学の「過去・現在・未来」の流れを、一連のミュージアムとしてご紹介しています。

### ① Texpo (テクスポ) : 繊維学部の活動紹介ギャラリー



Texpo では、繊維学部の教育と研究成果を紹介しています。

「T」は Textile Science and Technology (繊維学部) を、「e x p o」は exposition (展示・展覧会) を意味しています。

**研究面** 近年、繊維学部が国内外の研究機関や企業との協働研究により開発した製品群を紹介しています。

**教育面** 繊維学部の教育内容・各課程の紹介  
入試と就職の状況・学生活動の様子

繊維学部はさまざまなプロジェクトを主導し、これからも、地域や産業界との連携のもと、あらゆる分野の基盤を支える最先端の科学・技術として、より快適で、エコフレンドリーな機能性「繊維」を追求していきます。

### ② 「疾走するファイバー」展



「疾走するファイバー」展は、社団法人繊維学会と日本科学未来館の主催により、平成 16 年、最先端のファイバーテクノロジーを紹介するために日本科学未来館にて開催されました。平成 18 年より巡回展として各地を巡回した後、平成 22 年より、繊維学部にて常設展示することとなりました。

平成 30 年、繊維学会と日本化学繊維協会の協力により、各繊維関係企業から最先端の繊維製品の提供を受け、展示内容を大きくリニューアルしました。

展示コーナーは

- 循環型社会
- バイオミクリー (自然をまねる)
- 極限環境
- ナノテクノロジー
- 機能・快適性
- スマートテキスタイル

に分類され、ファイバーテクノロジーの最先端とこれからの可能性を示しています。

#### 【参考図書】

「Beyond fibers : 疾走するファイバー」

繊維学会, 日本科学未来館編 2004. 10 発行  
ISBN: 4990226607

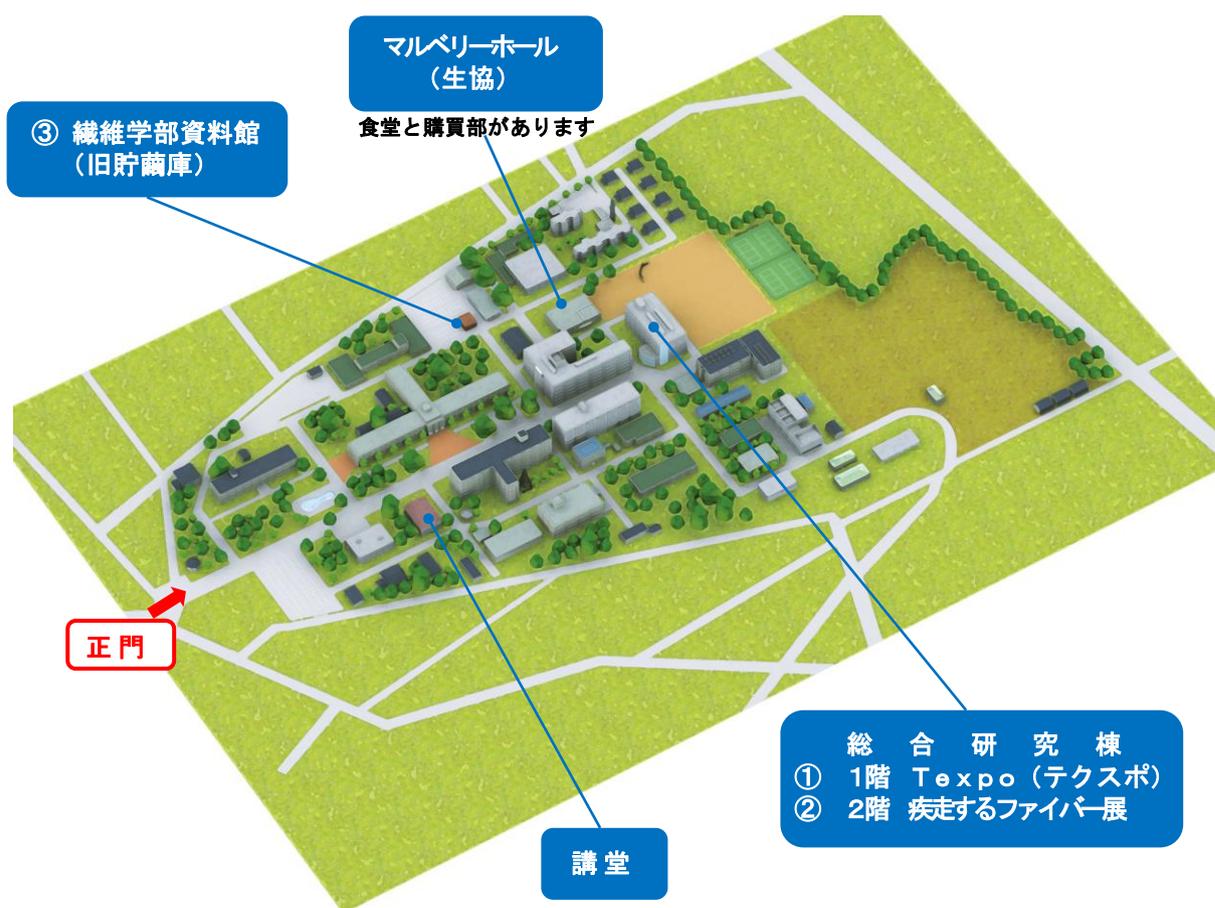
信州大学繊維学部所蔵 請求記号 586:Sh91

### ③ 繊維学部資料館



平成22年（2010年）春に、明治44年（1911年）竣工のレンガ庫（旧貯蔵庫）を、資料館としてリニューアルしました。このパンフレットに掲載した貴重資料の多くを、展示品として公開しています。

見学をご希望の際は、お気軽に担当（図書館）までお知らせください。



## 保存資料一覧

### 上田蚕糸専門学校の教材

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
織物見本帳 6冊 (裂数:634枚)	P3	○
掛け図 全270点		
- Anatomical chart of the silkworm larve (蚕児の解剖)		○
- Product of the silkworm and mulberry (蚕と桑からの産物)ほか	P5	○
模型 全8点		
- 蚕蛾の幼虫	P5	○
- 蚕蛾の成虫 ほか		○
その他		
- 標本 (蚕・繭の標本ほか) 83点	P16	
- 養蚕寿古六	P6	○
- 視聴覚資料 2点『日本の蚕糸-製糸技術発達史』ほか		

### 上田蚕糸専門学校の歴史

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
絵葉書 (榎本コレクション) 全52枚		
- 開校式記念絵葉書「本館」	P7	○
- 開校式記念絵葉書「校舎全景」		○
- 開校式記念絵葉書「製糸科」セット		○
- 開校式記念絵葉書「養蚕科」セット	P7	○
- 開校式記念絵葉書「開校記念スタンプ」		○
- 開校10周年記念絵葉書	P7	○
- 開校25周年記念絵葉書		○
- 開校25周年記念絵葉書「開校記念スタンプ」		○
- 絵葉書「第2回運動会」		○
- 絵葉書「第4回運動会」		○
- 上田蚕専絵ハガキ		○
- 上田名所絵葉書 (上田市役所)		○
- 上田名所絵葉書 (上田名所としての蚕専)		○
- 絵葉書「小県蚕業学校・養蚕業組合」ほか		○
生糸商標彙帖 1冊 (841枚)	P4	○
上田蚕糸専門学校一覧附属配置図 明治44年度～ 全24点	P9	○
上田蚕糸専門学校写真 (ガラス乾板) 全674枚		
- 大正2年開校記念 校舎全景		○
- 徒競争		○
- 製糸科実習工場及び貯繭庫	P8	○
- 開墾		○
- 乾繭の山に詰まった実習生		○
- 機械座繰実習		○
- 円形梳綿機		○
- 開校式記念展示品		○
- 開校当時の授業風景		○
- 蚕児の解剖 ほか	P8	○

## 図 書

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
養蚕関係の図書（榎本コレクションを含む） 全126点		
- 蚕母要覧	P20	○
- 新撰養蚕秘書	P11	○
- 養蚕秘録 上・中・下（享和2年版）	P11	○
- 養蚕秘録（享和3年版、明治20年版）		
- 養蚕教弘録 上・下		
- 蚕飼養法記 全		
- YO-SAN-FI-ROK（養蚕秘録）		
- YO-SAN-SIN-SETS（養蚕新説）	P11	
- 絵本直指寶ほか		
上田蚕糸専門学校蔵書 20,684冊		
寄贈コレクション		
- 加美文庫 1,128冊	P19	
- 池田文庫 32冊	P19	
- 榎本コレクション 102冊	P20	
- 加藤宗一文庫 244冊		

## 錦 絵

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
養蚕関係の錦絵（榎本コレクション） 全22点		
- 女織蚕手業草 九（哥麿筆）	P20	○
- 女織蚕手業草 十（哥麿筆）		○
- 女織蚕手業草 十一（哥麿筆）		○
- 題名不明（広重（初代）画）		○
- 養蚕手引草（国政筆）		○
- 蚕やしなひ草（重宣画）		○
- 蚕養草 五（房種画）		○
- 蚕養草（房種筆）		○
- 五 蚕養草（房種筆）		○
- 五 蚕養草 繭糸はた（房種筆）		○
- 蚕やしなひ草 七八（芳員画）2点		○
- 蚕屋しなひ草 七八（芳員画）		○
- 蚕ころへ草 七八（芳員画）		○
- 題名不明（芳虎画）		○
- 養蚕美人競（芳虎画）		○
- 富国養蚕の図（芳春画）		○
- 豊年蚕養育（芳廉画）		○
- 蚕屋しない草 六（英泉画）		○
- 養蚕御一覧之図（周延筆）		○
- 養蚕御一覧之図の一部（周延筆）2点		○

## 絵画

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
針塚コレクション 全8点		
- 水墨画 (針塚長太郎作) 松・竹・草花 (掛け軸)		
- 「一品當朝」正村竹亭作 (掛け軸)		
- 日本画 (富士と桜) 正村竹亭作 (掛け軸)		
- 日本画 (ひなげし) 正村竹亭作 (掛け軸)		
- 針塚長太郎肖像画 (油彩)		
- 六面小屏風 正村竹亭作		
榎本コレクション 全3点		
- 六曲屏風一双 (榎本コレクション)		
- 大日本蚕業歴史画 (掛け軸)		
- 養蚕之図 (掛け軸)		
その他 全9点		
- 日本画 野口駿尾 [画] 2点	P14	
- 洋画 倉田白羊 「秋陽」	P14	
- 日本画 「水芭蕉」		
- 小山長雄画 「旧本館」		
- 油彩画 「春の残雪、浅間」 柴文江 作		
- 油彩画 「千曲慕情」 川村雄二郎作		
- 油彩画 「白樺湖初冬」 高岸徹作		
- 油彩画 「八ヶ岳秋景」 高岸徹作		

## 書

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
針塚コレクション 全4点		
- 針塚長太郎書 (掛け軸) 3点		
- 宇垣一成書 (針塚長太郎宛) (掛け軸)		
榎本コレクション 1点		
- 佐久間象山書 (掛け軸)	P20	
その他 全15点		
- 針塚長太郎 「挺身従事」	P13	
- 針塚長太郎 「啐徒啄師」	P13	
- 針塚長太郎書 (掛け軸)		
- 閑院宮載仁親王 「寛猛相濟」		
- 山岡鉄舟 屏風		
- 山岡鉄舟 「四海八荒春」		
- 八代六郎 「止至善」		
- 石興 「心高士」		
- 高田忠周 (竹山) 「進徳修行」		
- 又一 「敬勝百邪」		
- 裕補 「神清知明」		
- 胡瑛 「利用厚生」		
- 比田井天来 「專精趨学」		
- 土井晚翠 「神怡心静」		
- 塚田 「和顔愛語」		

## 装束

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
衣冠類 全44点		
- 闕腋袍(四位以上武官用)	P12	○
- 縫腋袍(六位文官用)	P12	○
- 闕腋袍(六位武官用)	P12	○
- 単		○
- 下襲(四位以上用)		○
応援団長の衣装 2点	P12	
針塚長太郎着用大礼服・燕尾服・帽子 (針塚コレクション)		

## その他

	パンフレット 掲載頁	デジタル アーカイブ *1
彫刻(針塚コレクション) 全2点		
- 彫刻「花神・花咲翁」 芳溪作		
- 彫刻「松風」 惹瀾作		
器具 全59点		
- 紡織器具(座繰り機など) (榎本コレクション)	P20	
- 紡織器具(繭袋など)		
- 実験器具(化学天秤など)		
写真(上田蚕糸専門学校実習風景など) 全99点		
記念品 1点		
- 硯箱(昭和15年度の針塚賞)	P7	
専門学校刊行物 全28点		
- 上田蚕糸専門学校一覧 明治44年度～	P9	*2
事務文書 全68点		
- 物品出納簿ほか	P10	
- 上田蚕糸専門学校平面図(青焼き)ほか	P10	

\*1 デジタルアーカイブは、<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/>からご覧ください。

\*2 上田蚕糸専門学校一覧は、「信州大学機関リポジトリ」で公開しています。  
<https://soar-ir.shinshu-u.ac.jp/dspace/handle/10091/5041>

アーカイブ資料に関するお問い合わせ先

信州大学繊維学部図書館  
〒386-8567長野県上田市常田3-15-1  
Tel 0268-21-5313  
Fax 0268-21-5321

## 信州大学繊維学部アーカイブ

上田蚕糸専門学校からの貴重資料を中心に

平成22年（2010年）9月22日 第2版発行

平成24年（2012年）3月22日 第3版発行

平成27年（2015年）4月22日 第4版発行

令和元年（2019年）7月22日 第5版発行

平成21年（2009年）10月21日

「信州大学繊維学部アーカイブ歴史資料編：上田蚕糸専門学校からの貴重資料」発行

平成22年2月22日 改題・改訂

編集：信州大学繊維学部図書館

発行：信州大学繊維学部

386-8567 長野県上田市常田3-15-1

Tel 0268-21-5313 Fax 0268-21-5321

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/>

印刷：田口印刷株式会社